

平成30年度第3回竹原市地域公共交通会議

日時：平成 31 年 3 月 25 日（月）14 時 00 分～

場所：竹原市役所 3 階第 1・2

1. 開会

2. 議題

○議案第 1 号 報告案件 7 月豪雨災害における公共交通の状況について

（事務局より資料にもとづき説明）

（質疑応答）

- ・ 今回の豪雨災害で、実際に対応に携わった関係者から、経験等をお聞かせ頂きたい。
- ・ 竹原～三原間についてはバス利用者が多く 2 台の車両で運行している。8 月 11 日以降、呉線の代行バスだけでは対応が難しかったため、芸陽バスも利用して頂くよう協力した。
- ・ JR では組織改編により管区の要員が減少した中、災害対応の取り組みを行い、呉線は、当初の予定より 1 ヶ月早く復旧した。その間、地域や芸陽バスの協力を得た。社として、災害に強い鉄道としていかなければならないと考えている。今回の経験で、災害復旧に関するノウハウもできた。
- ・ 今回、県からも、当初より代行バスをお願いしていた。呉線の運休により、東西方向の移動が困難となり、通学支援が行われたのは 1 ヶ月後であったが、どのような難しい面があったのかお教え頂きたい。今後、公共交通に関し、災害時の対応マニュアルを作ろうとしているところであり、参考としたい。
- ・ 呉線が運休、国道も寸断されたため、保護者から市に要望があった。バスの運行を検討したが難しかった。三原方面には定期路線バスが運行されており利用可能であり、呉方面について芸陽バスと交渉を行った結果、車両と乗務員の確保が難しいなか、1 往復を確保して頂いた。もともとバス路線がない方面だったため苦慮した。

○議案第 2 号 協議案件 竹原市地域公共交通網形成計画骨子（案）について

（事務局より資料にもとづき説明）

（質疑応答）

- ・ 総合計画の考え方に基づいた位置づけであり、昨年からの竹原市の公共交通に関する基礎調査に基づいて、今後の取り組みの柱が立てられており、これらが目標につながる

ることがポイントである。

- 昨年の経験から、豪雨災害のような災害に見舞われた場合、公共交通がどのようなことになってしまうかがわかった。代行バスと定期路線バスを利用して対応することとなったが、この経験をもとに、本計画に何か反映することはあるのか。
- あのような大災害ではなくても、最近、異常気象が予想される場合において、無理に運行を行わず、計画的に運休する場合もある。今後の取り組みの中で、運休や遅延等の場合に、異なる交通事業者や関係者で情報を一元化し、配信できるような仕組みを挙げている。
- 現状または課題等のところで、昨年の豪雨災害のことにも触れて記述しておいてはどうか。

今後の取り組みの中で、便の調整等が挙げられているが、その際、コストとのバランスを考えなければならない。あわせて効率的で最適なネットワークとすることにも触れておいてはどうか。また、若者の外出ニーズとして、通学でのニーズにも触れておいてはどうか。

将来のネットワークイメージで、支線とは、乗合タクシー等のことであると理解してよいか。現状のところで、乗合タクシーのことも記載してはどうか。また、沿線フィーダは、呉線と競合しないか危惧されるため今後調整が必要と思われる。

今後の運行の持続に向け、公共交通事業者の乗務員不足が課題であるため、現状・問題等で記述しておいてはどうか。

- (事務局) ご指摘のあった事項は計画書に記述します。支線は、現行の乗合タクシー等を位置づけて維持するという意図です。沿線フィーダは、絵的には近いように見えますが、駅から遠い地区をフォローするイメージです。何れにしても検討の過程で公共交通事業者と調整します。乗務員不足については、航路等でも問題になっていることを認識しています。

- JRとして、今後の取り組みのうち主に(4)(5)等に携わらなければならないと考えている。これまで、ダイヤ改正の際、結果の報告しかできなかったが、資料にあるような事前のミーティング等ではできると考えている。ただし、鉄道が線としてつながっているため難しいこともある。計画運休等について、これまでは駅でしか情報発信していなかったが、資料にあるように、例えば市等に伝達して情報を集約して頂き、そこから配信するような方法が考えられ、JRとしても協力できる。

運行以外の面でも、これからは、市民が住みやすいまち、さらには、観光で訪れる人たちが魅力を感じて頂けるまちにしていくことに、JRとして地域のみなさんといっしょに取り組んでいきたいと考えている。観光企画等では、瀬戸内プロジェクトの例もあり、企画の中で、駅から先のアクセスも含めて考えていきたい。

- 路線バスとして、乗務員不足が深刻であり、この先5年間で状況が大きく変化するものと思われる。人材を募集しても集まらず、高齢化も進んでいる。かぐや姫号は、高速バスであるため高齢者が運転しないようにしていたが、それも考えなければならない。限られた人材のなかで、効率の良い公共交通を考えなければならない状況であり、なるべく利便性を損なわずに、できることを考えながらみなさんと協力していきたい。
- 事務局から提示された骨子案については、細部の記述についての意見が得られたが、大きな変更を要する意見等はなかった。これ以降は、この骨子にしたがって、計画書を事務局で整理するというところでよいか。
- (全会、異議なし)

○その他

- (今後のスケジュールについて、事務局から報告)
- (事業評価について、事務局から報告)
- (書面協議結果について、事務局から報告)
- (第6次総合計画の概要について、事務局から紹介)
- 福祉バスについて、運行事業者の確保が難しいなか、今後どのようにしていくか、検討しているのであればお教え頂きたい。
- ドライバー不足等の現状があり、状況が厳しくなっている。福祉バスが、ニーズにマッチしているかどうかなど、考える良い機会なのかもしれない。現行の形態を続けるかどうかも含め、今後、継続的に検討していきたい。
- (ダイヤ改正等について、JR西日本から案内)
- 先ほどの、今後の取り組みに関して。忠海駅は、外国人など多くの観光客に利用して頂いている。資料にあったように、駅から港まで歩いている人を見ると危ないと感じるし、不案内であることも認識している。今後、土日祝は、可能な限り職員が駐在して案内していきたいと考えている。要員がなかなか確保できないが、三原からの放送も利用したい。現地で何か気づかれた場合は、ぜひお教え頂きたい。
- (公共交通関連の予算について、運輸局から紹介)
- このなかで、新たに Maas の実証実験が追加されている。

以上